

## 第49回「全国漆器展」審査講評

審査員長 和田 省司

本年の最高賞である内閣総理大臣賞は、越前漆器協同組合が受賞され、四連覇を達成されました。審査ポイントでも総得点で他を大きく引き離す圧倒的な結果でありました。四連覇というのはスポーツ、とりわけ2020年に東京で開催されるオリンピックなどでも大変な偉業であり、福井県をはじめ、鯖江市並びに関係各位の努力の賜物だと思います。審査員11名を代表してお祝い申し上げます。

本年は家具などの大物作品は少なく、現代のライフスタイルにあった生活漆器に力点をおいた傾向にあったようです。また、ここ数年出品のなかった漆画が数点出品されており、会場に彩を添えていたこともご報告申し上げます。

### 団体集計結果（上位5組合）

産地組合名	美術・工芸品部門					日用品部門					合計	受賞 加点	総合計
	独創性	表現力	技術力	選定P	小計	機能性	市場性	デザイン性	選定P	小計			
越前漆器協同組合	103	107	103	270	583	56	60	56	160	332	915	60	975
香川県漆器工業協同組合	26	34	30	80	170	79	75	81	230	465	635	40	675
伝統工芸高岡漆器協同組合	27	31	35	90	183	43	55	55	130	283	466	40	506
木曾漆器工業協同組合	54	68	62	160	344	16	14	16	60	106	450	10	460
秋田県漆器工業協同組合	28	32	30	80	170	41	39	41	110	231	401	10	411

### 美術・工芸品部門集計結果（上位10作品）

産地組合名	出品 番号	品名	生産者	作品合計				
				独創性	表現力	技術力	選定P	小計
越前漆器協同組合	1602	乾漆盛器 “越の海”	前田利栄	32	32	32	80	176
越前漆器協同組合	1601	乾漆造り 盛鉢（雪月花）	山本 勝	27	29	27	70	153
会津漆器協同組合	402	会津絵付き変り型 手提三段重	石本公雄	19	23	23	70	135
木曾漆器工業協同組合	702	四季の飾り重	荻村 実	20	26	24	60	130
香川県漆器工業協同組合	1801	乾漆蒔罫 丸箱 静穩	佐々木博	20	26	22	60	128
伝統工芸高岡漆器協同組合	1102	正倉院 螺鈿 文庫	仰中村漆器店	17	19	19	50	105
木曾漆器工業協同組合	701	八角茶櫃 塗分け呂色5色塗	宮原正志	15	19	19	50	103
輪島漆器商工業協同組合	1309	長手重（三段）	加藤漆器店	15	17	17	50	99
秋田県漆器工業協同組合	202	乾漆 皿	大関新作	15	17	17	50	99
越前漆器協同組合	1603	乾漆銘々皿（花鳥図絵変り） 6枚組	塚田孝一郎	17	15	15	50	97

### 日用品部門集計結果（上位10作品）

産地組合名	品番	品名	生産者	作品合計				
				機能性	市場性	デザイン性	選定P	小計
伝統工芸高岡漆器協同組合	1103	節皿（皿立付） 十二支 螺鈿・蒔絵	天野漆器株式会社	21	29	29	70	149
香川県漆器工業協同組合	1807	縄胎 蒔罫 縄目 象谷塗	西岡春行	29	23	25	70	147
青森県漆器協同組合連合会	3	二段 八角 長手弁当箱	蒔苗 太	20	18	28	60	126
越前漆器協同組合	1608	竹蒔絵付もてなし皿 5枚組	梶原伸夫	17	19	19	50	105
秋田県漆器工業協同組合	207	小箱 水面	高橋貞一	16	14	16	40	86
香川県漆器工業協同組合	1806	さぬき 角丸ボウル（6個セット）	中田 充	12	14	18	40	84
越前漆器協同組合	1609	箸洗い「里山」 5客1組	助田敏一	12	14	16	40	82
鳴子漆器協同組合	304	櫻造り木地呂5段 やぐら重	後藤常夫	12	14	14	40	80
青森県漆器協同組合連合会	2	月に青海波 丸笠	今年人	14	6	16	40	76
山中漆器連合協同組合	1408	TOHKA WINE ペア	我戸正幸	13	13	13	30	69

受賞作品（個人賞） ～美術・工芸品部門～



農林水産大臣賞  
[乾漆盛器 “越の海”]  
前田 利栄(越前)

直径 30cm、高さ 7cm の中型黒総呂色仕上げの乾漆五角型盛器。内側には、丸粉 8～15 号までの金粉の研ぎ出し蒔絵で描かれた紋様と器の黒の調和が、夜の海を連想させる。何を盛っても料理をを引き立てる作品である。



林野庁長官賞  
[乾漆造り 盛鉢(雪月花)]  
山本 勝(越前)

乾漆ならではの薄さが輪花の造形を引き立てている。内側には雪月花の文様と半月沈金文が描かれ、冬のおもてなしにはピッタリの作品である。



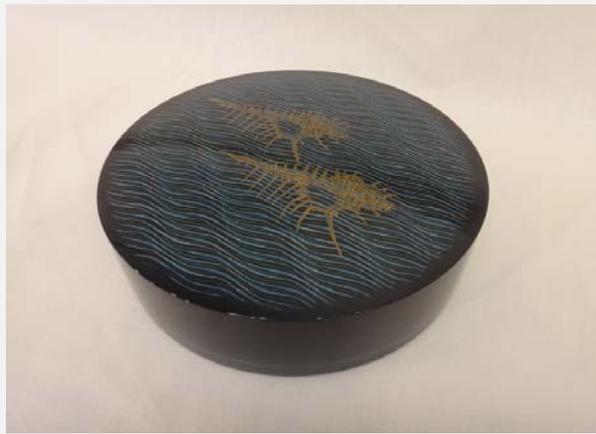
日本経済新聞社賞  
[会津絵付き変り型 手提三段重]  
石本 公雄(会津)

松竹梅に南天文様の蒔絵を吉野風に仕上げ、内側は朱塗りの手提げ付きの変り八角三段重。春の屋外パーティーや正月の集いに、豪華にして上品な存在感が、宴を華やかにする作品である。(幅 28cm・高さ 27cm)



株式会社商工組合中央金庫社長賞  
[四季の飾り重]  
荻村 実(木曾)

四季の風景が色漆蒔絵で描かれている重箱。四季ごとに蓋が用意されており、正月くらいしか使うことが少なくなった重箱も、季節ごとに使いたくなる作品となっている。側面にも桜、水仙など四季の植物が描かれており、飾って置いても見栄えのする作品である。(16cm 角型・高さ 13cm)



全国漆業連合会会長賞  
[乾漆蒟醬 丸箱 静隠]  
佐々木博(香川)

乾漆丸型、カイと波文様で緑波文様の上に高蒟絵のブラウン色がとても美しく光り輝いている。



一般社団法人日本漆工協会賞  
[正倉院 螺鈿 文庫]  
有限会社中村漆器店(高岡)

高岡の堂々とした螺鈿文庫。内外ともに黒漆塗であり、厚貝の良質なものをを用いて描かれた正倉院文様が引き立った作品である。(横 30cm・縦 40cm・高さ 15cm。)

受賞作品（個人賞） ～日用品部門～



経済産業大臣賞  
[飾皿(皿立付) 十二支 螺鈿・蒟絵]  
天野漆器株式会社(高岡)

シンプルでフラットなデザインが使う人の創造を掻き立てる作品。蒟絵の線で描かれた干支に螺鈿をアクセントにしたシンプルな装飾からは、料理を邪魔しない作者の心遣いを感じられる。日常の様々なシーンで気軽に使えるうえ、客人との会話が盛り上がる作品である。12枚セットではあるが、毎年1枚ずつ揃えていく楽しみも併せ持つ作品である。



経済産業省商務情報政策局長賞  
[縄胎 蒟醬 縄目 象谷塗]  
西岡 春行(香川)

型に合わせて巻いた縄を固めて素地とする技法で作られた縄胎の作品。また、蒟醬・象谷塗など、香川漆器の伝統技法の粋を集めた贅沢な逸品である。幅広の縁は持ち易く実用性に優れ、また夕焼けボカシの風合いが見るものを魅了する。普段使いは勿論のこと、パーティーなどでも使い勝手の良い作品である。



日本放送協会会長賞  
[竹蒔絵付もてなし皿 5枚組]  
梶原 伸夫(越前)

木堅地の黒塗丸粉9号より15号までを何回にも分けて高蒔絵に仕上げた竹文様は、古くから京都で使われていた伝統的な文様で、格式を感じる作品である。



一般財団法人伝統的工艺品産業振興協会賞  
[二段 八角 長手弁当箱]  
蒔苗 太(青森)

角を削いだ八角形の形状で、松葉文様の品格ある呂色仕上げの作品。365日毎日使いたくなるお弁当箱で、食事の時間が待ち遠しくなるような作品である。



一般財団法人生活用品振興センター理事長賞  
[小箱 水面]  
高橋 貞一(秋田)

かまぼこ型の形状で使い勝手の良いサイズ感。桜文様や青貝螺鈿など渋さを感じる装飾は、長年使い込んだかのような風合いを醸し出している。内側にもうっすらと桜文様を描いており、作者の細かな心配りを感じる作品である。



日本漆器協同組合連合会理事長賞  
[さぬき 各丸ボウル(6個セット)]  
中田 充(香川)

木材を角型に削り、内を丸く削りだした形状。六色の色漆を内側に塗り、魚や野菜などの身近な図案を用いた装飾は、気軽に使える雰囲気演出しており、毎日使いたくなる作品である。